

授業科目名 <英訳>	理学と社会交流II Science and Community Outreach II				担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 講師 常見 俊直					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 後期	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
科目番号	3001										
[授業の概要・目的]											
<p>理学と社会との交流のあり方について学ぶ。近年、科学コミュニケーションやアウトリーチをはじめ、科学者の社会的責任について議論が盛んに行われている。これらの歴史や現在の科学技術にまつわる政策を講義する。講義にくわえて、受講生は社会交流事業に参加し、来場者との1対1の対話を通しての実践経験を積み、知識をより確かなものとする。また、社会交流プロジェクトの企画・運営についても学び、プロジェクト目標達成にむけての執筆表現能力、討論・進行能力、図画制作能力を修得する。</p>											
[到達目標]											
<p>理学を通して京都と関連のある事柄についての理解を深めるとともに、京都地域についての理解を深める。また、社会交流活動についての実施手法について、具体的な活動を用いて理解を深め、受講生が活動実施するにあたり、十分な力量を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>最初の4～5週については講義を中心に行い、その後は、実践的な科学コミュニケーションのための理数系の実験教材や、映像などの制作を行う。また、制作したものをもって、社会交流事業に参加する。1)講義においては、科学コミュニケーションやアウトリーチをキーワードに、歴史、政策、現在の活動について伝える。2)討論・進行を行うことで、コミュニケーション能力の向上を行う。3)図画制作能力については、社会交流プロジェクトの展示物の製作などを通して、コンピュータ上でのソフトウェア（たとえば、PhotoshopやIllustrator）の使い方を学ぶ。4)土日祝日においては、社会の中に出てアシスタントとして理学研究科等主催の社会交流活動に参加する。（期間中に2～3回程度）。5)上述の知識や、活動経験を通して、プロジェクト全体の企画運営能力を高める。</p>											
[履修要件]											
<p>3回生以上配当の専門基礎科目であることに注意すること。理学を社会に伝えるために、大学2回生レベルの理学を習得していることを求める。2回生等も履修可能ではあるが、理系科目の習得状況によって受講可否を判断する。また、単位認定はされないが、大学院生などの理学の研究を行っている者の聴講や社会交流活動への参加を歓迎する。</p>											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<p>習得した理学を伝える為の実験機材や、ポスターやムービーの制作により、単位を認定する。また、土日祝日の社会交流事業に参加して、実践的経験を積むことが望ましい。</p>											
----- 理学と社会交流II(2)へ続く -----											

理学と社会交流II(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

John K. Gilbert (編集), Susan M. Stocklmayer (編集) 『Communication and Engagement with Science and Technology: Issues and Dilemmas』 (Routledge) ISBN: 978-0415896269

[授業外学習(予習・復習)等]

演習科目なので、多くの部分は講義時間中に行うが、自らが学んだ視点をもとに、大学生活を送ることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

土日祝に行われる社会交流活動に参加し、自らが制作した実験機材やポスターやムービーを呈示してください。

相談があれば、随時受け付けますので、理学研究科社会交流室 <http://cr.sci.kyoto-u.ac.jp>をみて、電話やメールなどで連絡をください。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。